

UCC グループは、生産地の自然環境・社会環境の維持がコーヒー生産における最重要課題であるという認識の下、生産地を支える取り組みとしてネイチャーポジティブの活動などを行っております。こうした取り組みについて、持続可能な調達のための戦略的対応を検討するべく、TNFD のフレームワークである LEAP アプローチに沿って、整理を開始しました。

■ TNFD LEAP アプローチの L・E(発見・診断)

コーヒー産業について、バリューチェーン及び自然との関わりにおける産業特性を次のように認識しています。

コーヒー産業について	バリューチェーン	産業特性
	上流: コーヒー豆生産 中流: 輸入・加工・販売 (UCC 事業) 下流: サービス・消費	コーヒー産業のライフサイクルアセスメントの観点より、最大のインパクトは肥料や燃料、灌漑用水などの投入が多い農園にあることを認識。コーヒー豆の栽培は、天然林の農地転換による森林減少や生物多様性の減少を引き起こす可能性がある。

コーヒーの産業特性から、最重要課題である上流のコーヒー豆生産におけるロケーション分析を次のプロセスに沿って実施し、優先的に対応を行う必要のある地域を特定しています。

上流のロケーション分析 /優先拠点の 選定	実施プロセス	分析内容
	Step1: 生産面積の推計	2021 年に調達したコーヒーの調達量から生産に必要な総面積を推定
	Step2: 生産地域のマッピング	UCC の総調達量の上位 8 か国(ブラジル、エチオピア、ホンジュラス、パルー、ベトナム、コロンビア、グアテマラ、タンザニア)を選定
	Step3: 分析指標の選定 (保全の優先度の決定)	気候、生物多様性、将来の変化に対する脆弱さなどの、保全の優先度における主要な分析指標を決定
	Step4: コーヒーや自然にとって重要な地域の特定	コーヒーと自然の両方にとって重要なクラスタ(行政単位)として、8 カ国の中で 31 か所を特定
	Step5: 戦略的生産国(優先地域)の選定	自然関連リスクの分析結果や、UCC グループにとって調達戦略の観点から重要性、また将来的なポテンシャルの有無や UCC グループ独自の取組みの有効性、などの複数の観点をもとに、ブラジル、ベトナム、タンザニア、ウガンダの 4 カ国を優先地域として特定

「ロケーション分析における優先地域選定のためのメソッドロジー・指標」

UCC グループ調達量の上位 8 か国において、コーヒー農園や周辺地域におけるネイチャーポジティブに重要な活動の評価する複数の多角的なロケーション分析指標を特定しています。各ロケーション分析指標に対する、クラスター内のコーヒー生産地(面積)の該当割合をクラスター間で比較することで優先地域決定の要因のひとつとしています。

表:ネイチャーポジティブに重要な活動とロケーション分析指標

ネイチャーポジティブ に重要な活動(分類)	ロケーション分析指標
【保護】 これ以上の損失を防ぐこと	コーヒー生産地における国際的な生物多様性の観点から重要な地域の割合(%)
	コーヒー生産地における炭素の観点から重要な地域の割合(%)
	コーヒー生産地における 2050 年までの将来的な変化に対して脆弱な地域の割合(%)
【管理/再生】 農園内の土地を再生・管理すること	コーヒー生産地内のクラスターのアラビカ種・ロブスタ種の気候適合性が 2050 年までに適さなくなる割合(2010 年度比)(%)
	アラビカ種・ロブスタ種に適しているクラスターの 2050 年での気候適合性の割合(2010 年度比)(%)
【修復】 農園周辺地域の森林を回復させること	コーヒー生産地における ANR (再生された森林)の割合(%)
	コーヒー生産地における 2011-2021 年の森林減少割合(2011 年比)(%)

※ANR とは、Assisted Natural Regeneration を意味し、劣化した土地の回復を促進するために、自然再生と的を絞った人為的介入の 2 つを組み合わせた森林再生技術のことである。

■ TNFD LEAP アプローチの A(評価)

コーヒー産業および UCC グループのリスク・機会を次のように認識しています。今後は UCC グループの事業に沿わせてさらに分析を深め、具体的な事業へのリスク・機会について検討を進めたいと考えています。

コーヒー産業および UCC グループのリスク・機会

リスク分析内容	カテゴリー	項目	リスクの概要
	移行リスク	政策	森林伐採地で作られたコーヒーの販売の規制が導入され、森林伐採地で生産されたものでないことを示せないコーヒーは販売機会を失う可能性がある
		市場の需要増 土地改変リスク	将来のコーヒー需要を満たすには、2050 年までに生産量を 3 倍に増やす必要がある
			コーヒーは全世界で 1000 万 Ha もの農地で栽培されている
			コーヒーの生産地は生物多様性や森林破壊の脅威にある土地で栽培されている
	物理リスク (慢性)	気候変動	2050 年までに、気候変動に伴う気温上昇や降雨量の変化によって、コーヒーの生産適地および収量が減少し、コーヒーの調達コストが増加する 気候変動はコーヒーの生産性と品質に影響を与え、最終的に供給自体に関わる

機会分析内容	カテゴリー	項目	コーヒー産地における機会の概要
	持続可能性	自然との共生	農園において環境的に持続可能な方法でコーヒーの生産性と品質を向上させる取り組みを行うことにより、人と自然の双方にとって良い結果をもたらす
	持続可能性	ネイチャーポジティブ	ネイチャーポジティブに重要な活動を保護・再生・修復というカテゴリーに分けて実施することで、効果的で持続可能な土地の管理を実現
	事業	安定した調達	生産地への投資による持続可能な調達の実現

■ TNFD LEAP アプローチの P(準備) 今後の対応策に向けて

UCC グループでは、コーヒー豆の安定調達を目指したコーヒー農園との取組等を進めておりますが、今回の分析内容から生産地への取組が重要であることが改めて分かりました。

UCC グループは、UCC サステナビリティ指針に定める“ネイチャーポジティブ”の一環として「森林破壊ゼロ宣言」を制定し、遅くとも 2030 年までに、森林の破壊や転換を伴わないことをトレースし、確認されたコーヒー豆のみを使用する目標を掲げています。上流の生産地のロケーション分析における、戦略的生産国の選定に際して、森林減少等の課題があり、多くの炭素が貯留されていることから保護価値が高まっているエリアという評価観点を取り上げています。今後はこれら戦略的生産国に対し森林破壊ゼロに向けた取り組みをはじめ、ネイチャーポジティブに重要な活動を優先的に行っていく予定です。UCC グループが特に貢献できることを行動計画として策定し、ルール作り・運用面を固めていきます。ここでは引き続き多様なステークホルダーと協働してリスク・機会に対する対応策を検討し、TNFD に沿った分析や開示を深めていきたいと考えています。

ネイチャーポジティブに重要な活動とは

保護・管理/再生・修復 に分類して実施

TNFD で推奨している自然関連のリスク・機会への対応:ミチゲーション・ヒエラルキーの考え方にも沿うものです。